

「学びの変革」 全県展開に係る取り組み

主体的な学びを促す授業改善事例 ～ 江田島市立三高小学校 ～

本校の目指す子ども像

主体性 自己肯定感
共感力 表現力

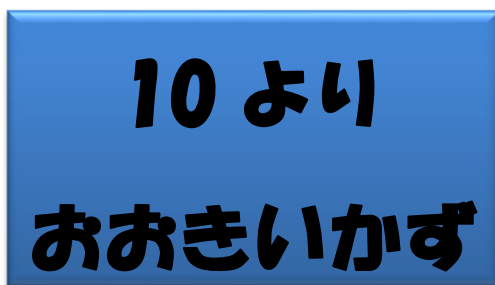
令和2年度 研究主題

自ら学び、ともに学び合い、自分の考えを表現できる児童の育成
～思考力・表現力を育てる授業づくりを通して～

1年生の実践事例

Qubena を使って自由進度学習！

算数科「10よりおおきいかず」と「なんじなんじはん」の単元で Qubena を使って学習しました。「10よりおおきいかず」は11～20の数の構成・分解を理解すること、10を単位とした構成を理解した上で、「10+2」や「15-2」などの2位数±1位数の計算ができるようになることを目標としています。「なんじなんじはん」は、「～時ちょうど」と「～時半」が読めるようになることを目標としています。



最初は、10以上の数の構成について理解できるよう、子どもたちが大好きな折り紙を使って学習しました。ここではまだ Qubena を使わず、一斉学習をしました。自分が思うように10より大きい数を「早く 簡単に 正確に(まちがえずに)数えるにはどうするか」という視点で数えさせました。2ずつ数える方法、5と5と4に分けて数える方法と色々出ましたが、10といくつに分けてすると一番分かりやすくなりました。ここでは、子どもたちにどうやって数えたのか、どうしてこれが一番よいと思ったか説明させ、互いの話を聞きながら理解を深めていきました。

その後、2とび、5とびを理解したり、数の直線の読み方や数の大小比較について学習したりしましたが、10～15分程度使って黒板の前に集まって学習しました。その後、Qubena を使ってそれぞれ学習を進めました。45分間のうち、10～15分間はみんなで協働的に学ぶ時間、残りの時間を使って Qubena を通して「10よりおおきいかず」の単元学習を進めました。

なんじ なんじはん



「なんじなんじはん」の単位では、まず、左上の写真のように時計の読み方をみんなで確認しました。「ながいはりが12のときは、～じちょうど」、「ながいはりが6のときは、～じはん」というところを子どもに何回も説明させ、理解できた子どもから Qubena を使って学習というスタイルにしました。「～じちょうどはわかるけど、～じはんがむずかしい…」という難しさを感じていた子が何名かいたので、その子たちは算数セットにある時計の模型を自分で動かしながら、Qubena の問題を解いていきました。模型には数字と数字の間を指していると何時かが書いてあるので、時計を読むことに難しさを感じている児童にはとても有効でした。

難しくて分からないと思った子は、すでに進んでいる子に自ら聞くという姿も見られました。Qubena を使い始めた頃は、先生にばかり質問していましたが、この頃から子どもたち同士で聞く姿も見られました。



問題番号	正解数	正答率	進捗状況
1	10/10	100%	連続10回正解しています
2	18/20	90%	連続10回正解しています
3	1/10	10%	連続10回正解しています
4	1/10	10%	連続10回正解しています
5	18/20	90%	連続10回正解しています
6	18/20	90%	連続10回正解しています
7	11/20	55%	連続10回正解しています
8	12/20	60%	連続10回正解しています
9	10/20	50%	連続10回正解しています
10	0/10	0%	連続10回正解しています

右の写真は「Qubena manager」という管理者用ページで、子どもたちの学習の進捗状況が分かります。連続で何問正解しているか、どれくらいの正答率なのかが分かります。

Qubena のよさは、自分の理解度に応じて自分のペースで学習できる点です。

Qubena を使うと、子どもたちに「教える」時間がぐっと減り、子どもたちが問題を解く時間が増えました。「教える」時間を減らし、子どもたちが自ら学習を進められるような時間を増やすことができるような工夫をすることで、安心して学べる環境ができること、飽きなく学習に取り組め、意欲的に学ぶことができるのではないかと考えます。